

# 道徳教育について

鳴門教育大学

岡田 康孝

# 本日の進め方

- 1 はじめに（自己紹介 など）
- 2 目標と課題の確認
- 3 講義
  - ・ 道徳教育の目標と進め方
  - ・ 教育活動全体で行う道徳教育について
  - ・ 「特別の教科 道徳」について
  - ・ 校内での推進について
- 4 演習（グループ協議）
- 5 まとめ

# 2 目標の設定と確認

## 講師としての 本日の目標

「とくしま教員育成指標：教諭用」の資質・能力の項目・担任力「A 児童生徒理解・指導力」（第3ステージ）、および管理職用指標「教頭」につながる資質・能力に関して…

①道徳教育において、児童・生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりを進めるに資する知識を身につける。

②勤務校の道徳教育について、上の①に関して、（ ）の立場から実態を踏まえた具体的な課題を発見し、解決策を考えることができる。

# 2 目標と課題の確認

## 先生方の課題の設定

今の立場や、なりたい自分に向けてのキャリア  
形成をイメージして、ご自身にとっての「道徳  
教育について」の課題を見つけてみましょう。

# 2 目標と課題の確認

## 「道徳教育について」の質問

「教育道徳について」の課題を明確にために下の問いに、簡単に答えてください。

頭に思い浮かぶことを、サササッと書いてください。5分ほどでお願いします。

# 2 目標と課題の確認

- (1) 道徳教育に対する率直なイメージはどんなものでしょうか？忖度なくお書きください。
- (2) あなたの学校の道徳教育の重点目標はなんですか？
- (3) 道徳教育の教育課程上の標準実施時数は何時間でしょう？
- (4) 以下の文は、道徳科の評価としてふさわしくない部分があります。どこでしょう。またその理由はなんでしょう。

思いやりについての学習では、手を差し延べる思いやりと見守る思いやりを比べながら考えていました。この学習を通して、人を思いやるやさしい心情が育ったと思います。

- (5) あなたの勤務校の職員が「道徳科」の授業で困っていることは、どんなことだと思いますか？
- (6) あなたの勤務校の「道徳教育推進教師」は、具体的にどんな取組をしていますか？
- (7) すべての質問に答えてみて、今の率直な感想を書いてください。



# 3 講義

## (1) 道徳教育の目標と進め方

# (1) 道徳教育の目標と進め方

## 道徳とは…

人のふみ行うべき道。ある社会で、その成員の社会に対する、あるいは成員相互間の行為の善悪を判断する基準として、一般に承認されている規範の総体。法律のような外面的強制力を伴うものでなく、個人の内面的な原理。（広辞苑）

道徳とは…

道…道理、筋道、社会規範

徳…内的な力、能力、実践力

社会規範を自分のものとして獲得していくこと

# 道徳教育と法規

## 教育基本法

### 教育の目的（第1条）

人格の完成を目指し，平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行うこと

# 教育基本法 第二条

## 教育の目標

一

幅広い知識と教養を身に付け、**真理を**  
**求める態度**を養い、豊かな情操と**道徳**  
**心**を培うとともに、健やかな身体を養  
うこと。

二

個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活と  
の関連を重視し、勤労を重んずる態度  
を養うこと。

三

正義と責任、男女の平等、自他の敬愛  
と協力を重んずるとともに、公共の精  
神に基づき、主体的に社会の形成に参  
画し、その発展に寄与する態度を養う  
こと。

# 四

生命を尊び、自然を大切にし、環境の  
保全に寄与する態度を養うこと。

# 五

伝統と文化を尊重し、それらをはぐく  
んできた我が国と郷土を愛するととも  
に、他国を尊重し、国際社会の平和と  
発展に寄与する態度を養うこと。

# 学校教育法

## 義務教育の目標（第21条）

- 一 学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 二 学校内外における自然体験活動を促進し、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 三 我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。
- 四 家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養うこと。
- 十 職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと。

# 道徳教育の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる**道徳性を養う**ことを目標とする。

# 「特別の教科 道徳」の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

# 道徳教育と道徳科の関係

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達段階を考慮して、適切な指導を行うこと。

# 道徳教育

学校教育全体を通して行う

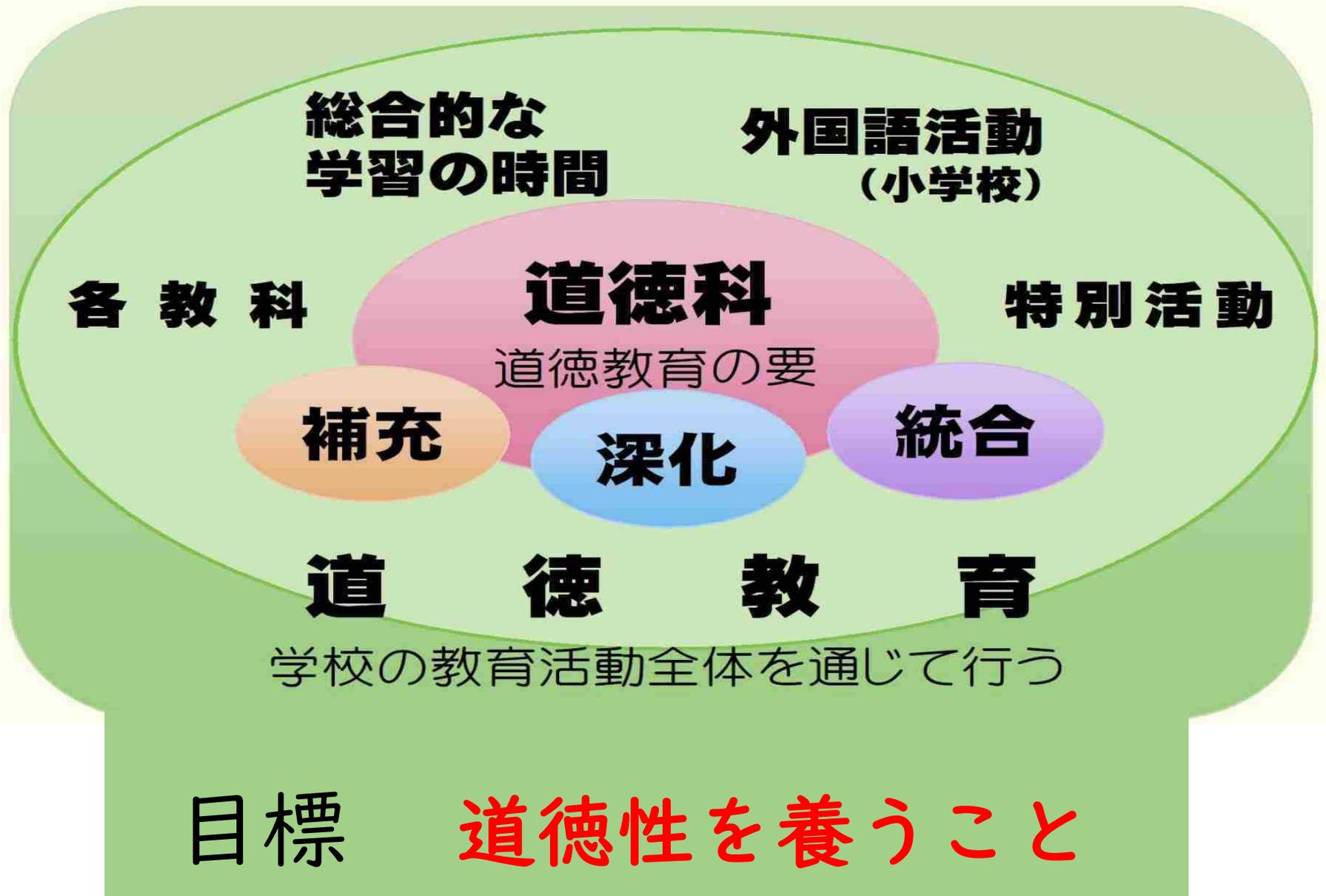
目標 道徳性を養うこと

# 道徳科

道徳教育の要 年間35時間

目標 道徳性を養うこと

# 道徳教育と道徳科の関係



# 道徳性を構成する諸様相＝道徳性

◆人間としてよりよく生きようとする人格的特性・内面的資質

◆道徳性を構成する諸様相

道徳的判断力

道徳的心情

道徳的実践意欲と態度

# 道徳的判断力

それぞれの場面において**善悪**を判断する能力。人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように**対処**することが望まれるかを**判断**する力。的確な道徳的判断力をもつことによって、それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。

# 道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り，善を行うことを喜び，悪を憎む感情のことである。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるとも言える。それは，道徳的行為への動機として強く作用するものである。

# 道徳的実践意欲と態度

## 【道徳的実践意欲】

道徳的判断力や 道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

## 【道徳的態度】

具体的な道徳的行為への身構え

「特別の教科 道徳」の内容一覧表(学習指導要領 一部改正 平成27(2015)年3月27日告示)

視点	標語	小学校 第1学年及び第2学年(19項目)		小学校 第3学年及び第4学年(20項目)		小学校 第5学年及び第6学年(22項目)		中学校(22項目)		標語	
		一部改正	現No.	一部改正	現No.	一部改正	現No.	一部改正	現No.		
A 主として自分自身に関すること	善悪の判断, 自律, 自由と責任	よいことと悪いこととの区別をし, よいと思うことを進んで行うこと。	1-(3)	正しいと判断したことは, 自信をもって行うこと。	1-(3)	自由を大切にし, 自律的に判断し, 責任のある行動をすること。	1-(3)	自律の精神を重んじ, 自主的に考え, 判断し, 誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	1-(3)	自主, 自律, 自由と責任	
	正直, 誠実	うそをついたりごまかしをしったりしないで, 素直に伸び伸びと生活すること。	1-(4)	過ちは素直に改め, 正直に明るい心で生活すること。	1-(4)	誠実に, 明るい心で生活すること。	1-(4)				
	節度, 節制	健康や安全に気を付け, 物や金銭を大切に, 身の回りを整え, わがままをしないで, 規則正しい生活をする。	1-(1)	自分でできることは自分でやり, 安全に気を付け, よく考えて行動し, 節度のある生活をする。	1-(1)	安全に気を付けることや, 生活習慣の大切さについて理解し, 身の生活を見直し, 節度を守り節制に心掛けること。	1-(1)	望ましい生活習慣を身に付け, 心身の健康の増進を図り, 節度を守り節制に心掛け, 安全で調和のある生活をする。	1-(1)	節度, 節制	
	個性の伸長	自分の特徴に気付くこと。	★新	自分の特徴に気付く, 長所を伸ばすこと。	1-(5)	自分の特徴を知って, 短所を改め長所を伸ばすこと。	1-(6)	自己を見つめ, 自己の向上を図るとともに, 個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	1-(5)	向上心, 個性の伸長	
	希望と勇気, 努力と強い意志	自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	1-(2)	自分でやろうと決めた目標に向かって, 強い意志をもち, 粘り強くやり抜くこと。	1-(2)	より高い目標を立て, 希望と勇気を持ち, 困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。	1-(2)	より高い目標を設定し, その達成を目指し, 希望と勇気を持ち, 困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる。	1-(2)	希望と勇気, 克己と強い意志	
	真理の探究							真理を大切に, 物事を探究しようとする心をもつこと。	1-(5)	真実を大切に, 真理を探究して新しいものを生み出すことと努めること。	1-(4)
B 主として人との関わりに関すること	親切, 思いやり	身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。	2-(2)	相手のことを思いやり, 進んで親切にすること。	2-(2)	誰に対しても思いやりの心を持ち, 相手の立場に立って親切にすること。	2-(2)	思いやりの心をもって人と接するとともに, 家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し, それに応えること。	2-(2)	思いやり, 感謝	
	感謝	家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	2-(4)	家族など生活を支えてくれた人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に, 尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。	2-(4)	日々の生活が家族や過去の多くの人の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し, それに応えること。	2-(5)	時と場をわきまえて, 礼儀正しく真心をもって接すること。	2-(4)		
	礼儀	気持ちのよい挨拶, 言葉遣い, 動作などに心掛けて, 明るく接すること。	2-(1)	礼儀の大切さを知り, 誰に対しても真心をもって接すること。	2-(1)		2-(1)	友誼と互いに信頼し, 学び合って友情を深め, 異性についても理解しながら, 人間関係を築いていくこと。	2-(1)	2-(4)	礼儀
	友情, 信頼	友達と仲よくし, 助け合うこと。	2-(3)	友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合うこと。	2-(3)		2-(3)	友誼の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち, 互いに助け合い, 高め合うとともに, 異性についての理解を深め, 個みや葛藤も経験しながら人間関係を築いていくこと。	2-(3)	2-(4)	友情, 信頼
	相互理解, 寛容			自分の考えや意見を相手に伝えるとともに, 相手のことを理解し, 自分と異なる意見も大切にすること。	★新	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに, 謙虚な心を持ち, 広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	2-(4)		2-(5)	相互理解, 寛容	
C 主として集団や社会との関わりに関すること	規則の尊重	約束やきまりを守り, みんなが使う物を大切にすること。	4-(1)	約束や社会のきまりの意義を理解し, それらを守ること。	4-(1)	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り, 自他の権利を大切に, 義務を果たすこと。	4-(1)	法やきまりの意義を理解し, それらを進んで守るとともに, そのよりよい方について考え, 自他の権利を大切に, 義務を果たして, 規律ある安定した社会の実現に努めること。	4-(1)	4-(2)	遵法精神, 公徳心
	公正, 公平, 社会正義	自分の好き嫌いやからわれないで接すること。	★新	誰に対しても分け隔てをせず, 公正, 公平な態度で接すること。	★新	誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく, 公正, 公平な態度で接し, 正義の実現に努めること。	4-(2)	正義と公正さを重んじ, 誰に対しても公平に接し, 差別や偏見のない社会の実現に努めること。	4-(3)	4-(3)	公正, 公平, 社会正義
	勤労, 公共の精神	働くことよさを知り, みんなのために働くこと。	4-(2)	働くことの大切さを知り, 進んでみんなのために働くこと。	4-(2)	働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに, その意義を理解し, 公共のために役に立つことをすること。	4-(4)	社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め, 公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。	4-(2)	4-(5)	社会参画, 公共の精神
	家族愛, 家庭生活の充実	父母, 祖父母を敬愛し, 進んで家の手伝いなどをして, 家族の役に立つこと。	4-(3)	父母, 祖父母を敬愛し, 家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。	4-(3)	父母, 祖父母を敬愛し, 家族の幸せを求めて, 進んで役に立つことをすること。	4-(5)	父母, 祖父母を敬愛し, 家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	4-(6)	4-(6)	家族愛, 家庭生活の充実
	よりよい学校生活, 集団生活の充実	先生を敬愛し, 学校の人々に親しんで, 学級や学校の生活を楽しくすること。	4-(4)	先生や学校の人々を敬愛し, みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。	4-(4)	先生や学校の人々を敬愛し, みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくることとともに, 様々な集団の中で自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。	4-(6)	教師や学校の人々を敬愛し, 学級や学校の一員としての自覚をもち, 協力し合ってよりよい校風をつくるとともに, 様々な集団の意義や集団の中で自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。	4-(7)	4-(4)	よりよい学校生活, 集団生活の充実
	伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	我が国や郷土の文化と生活に親しみ, 愛着をもつこと。	4-(5)	我が国や郷土の伝統と文化を大切に, 国や郷土を愛する心をもつこと。	4-(6)	我が国や郷土の伝統と文化を大切に, 先人の努力を知り, 国や郷土を愛する心をもつこと。	4-(7)	郷土の伝統と文化を大切に, 社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め, 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し, 進んで郷土の発展に努めること。	4-(8)	4-(9)	郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度
国際理解, 国際親善	他国の人々や文化に親しむこと。	★新	他国の人々や文化に親しみ, 関心をもつこと。	4-(6)	他国の人々や文化について理解し, 日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。	4-(8)	世界の中の日本人としての自覚をもち, 他国を尊重し, 国際的視野に立って, 世界の平和と人類の発展に寄与すること。	4-(10)	4-(10)	国際理解, 国際貢献	
D 主として生命や自然に関すること	生命の尊さ	生きていることのすばらしさを知り, 生命を大切にすること。	3-(1)	生命の尊さを知り, 生命あるものを大切にすること。	3-(1)	生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し, 生命を尊重すること。	3-(1)	生命の尊さについて, その連続性や有限性も含めて理解し, かけがえのない生命を尊重すること。	3-(1)	3-(1)	生命の尊さ
	自然愛護	身近な自然に親しみ, 動植物に優しい心で接すること。	3-(2)	自然のすばらしさや不思議さを感じ取り, 自然や動植物を大切にすること。	3-(2)	自然の偉大さを知り, 自然環境を大切にすること。	3-(2)	自然の崇高さを知り, 自然環境を大切にすることの意義を理解し, 進んで自然の愛護に努めること。	3-(2)	3-(2)	自然愛護
	感動, 畏敬の念	美しいものに触れ, すがすがしい心をもつこと。	3-(3)	美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。	3-(3)	美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもつこと。	3-(3)	美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。	3-(2)	3-(2)	感動, 畏敬の念
	よりよく生きる喜び			よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し, 人間として生きる喜びを感じる。	★新	人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し, 人間として生きることの喜びを見いだすこと。			3-(3)	3-(3)	よりよく生きる喜び

# 補足：道徳性とは…

「道徳性の諸様相については、様々な考え方が  
ある」（指導要領解説）

例えば、心理学的なアプローチでは…

○道徳性の発達について

ピアジェ、コールバーグ、チュリエルなど

○進化心理学的なアプローチでは

ハイトなど

心理学の理論を基にした授業も様々にある。

多様で効果的な指導、問題解決的な道徳との関係も…。

# 教科化の背景と、道徳教育の使命

## 教育改革国民会議報告(平成 12 年)

学校は道徳を教えることをためらわない

→学校は道徳を教えることをためらっているのではないか。

人生経験豊かな社会人が教えられるようにする

→ 学校の教師だけでは不十分ではないか

## 教育再生会議(平成 19 年)

徳育を「教科」として充実させ、自分を見つめ、他を思いやり、感性豊かな心を育てるとともに人間として必要な規範意識を学校でしっかり身に付けさせる。

学校は道徳教育を十分に行っていないのではないか。  
学校や教師によって道徳教育に温度差があるのではないか。

学校は道徳教育を十分に行っていないのではないか。  
学校や教師によって道徳教育に温度差があるのではないか。

- 全ての学校で、全ての先生が**同じ程度**に道徳教育、とりわけ道徳の時間の**指導**をできるようにならないか
- 全ての子供たちの手元に**教科書**が行き渡れば、どこの学校でも**同じ程度**の道徳教育が**行われる**のではないか。
- 道徳の時間の指導の結果を明らかにして、**指導の改善を**図れるようにする仕組**（評価）**をつくれれば**指導の充実**が図れるのではないか

# 教科科のねらい

## ①量的確保

検定教科書と評価の導入による年間  
35時間の確実な確保

## ②質的転換

より質の高い指導方法

# 道徳教育の改善の方策

- ① 道徳の時間を「特別の教科 道徳」(道徳科)として位置付ける
- ② 目標を明確で理解しやすいものに改善する
- ③ 道徳の内容をより発達の段階を踏まえた体系的なものに改善する
- ④ 多様で効果的な指導方法へと改善する→「考える道徳」「議論する道徳」への質的転換
- ⑤ 「特別の教科 道徳」に検定教科書を導入する
- ⑥ 一人一人の良さを伸ばし、成長を促すための評価を充実する

「考え、議論する道徳」「多様で効果的な指導方法」は、これまでも求められてた。

「考え、議論する道徳」

1958年 小学校道徳指導書

第1巻 総説 第2節 2-(5)

いっしょに考え、ともに語り合い道徳の時間が、児童にとって楽しいものとなり、次の時間が待ち遠しくなるような指導が望ましい。

「多様で効果的な指導方法」問題解決的な学習

課題解決的な学習指導を道徳の時間においてもとりいれるべき

道徳的価値の内面的自覚をより主体的に図るためには、問題意識や課題意識を明確にしておく必要がある。(1992年)

「多様で効果的な指導方法」体験的な学習の工夫

道徳のじかんにおいて具体的な体験を想起できるように工夫すること

他の教育活動における体験的な学習と道徳の時間における学習とを関連付けていく指導の必要性。(1992年)

# 道徳教育の本質部分は変わらない？

道徳教育の基本的な考え方は、適切なものであり、今後も引き継ぐべきと考える。

# 道徳教育の使命をもう一度確認！

道徳教育をめぐるっては、児童生徒に特定の価値観を押し付けようとするものではないかなどの批判が一部にある。しかしながら、**道徳教育の本来の使命**に鑑みれば、**特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるもの**と言わなければならない。

むしろ、**多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質**であると考えられる。

# 道徳教育の使命をもう一度確認！

もちろん、道徳教育において、児童生徒の発達の段階等を踏まえ、例えば、**社会のルールやマナー、人としてしてはならないことなどについてしっかりと身に付けさせることは必要不可欠**である。しかし、これらの**指導の真の目的**は、ルールやマナー等しんを単に身に付けさせることではなく、**そのことを通して道徳性を養うこと**であり、道徳教育においては、発達の段階も踏まえつつ、こうした**ルールやマナー等の意義や役割そのもの**についても**考えを深め**、さらには、必要があれば**それをよりよいものに変えていく力を育てることをも目指して**いかななくてはならない。

# 道徳教育の使命をもう一度確認！

将来の変化を予測することが困難な時代には、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要となる。そのためには、自らの人生や社会における答えが定まっていない問いを受け止め、多様な他者と議論を重ねて探究し、「納得解」（自分が納得でき周囲の納得も得られる解）を得るための資質・能力が求められる。

# 道徳教育の使命をもう一度確認！

これまでの道徳教育は、読み物の登場人物の気持ちを読み取ることで終わってしまっていたり、「いじめは許されない」ということを児童生徒に言わせたり書かせたりするだけの授業になりがちと言われてきました。

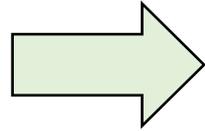
現実のいじめの問題に対応できる資質・能力を育むためには、「あなたならどうするか」を真正面から問い、自分自身のこととして、多面的・多角的に考え、議論していく「考え、議論する道徳」へと転換することが求められています。

(引用元：文部科学省 | いじめに正面から向き合う「考え、議論する道徳」への転換に向けて (文部科学大臣メッセージ) について (平成28年11月18日))

# 道徳教育

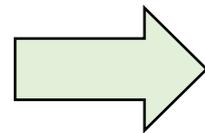
発達段階に応じて...

価値の受容



価値の発見 価値の創造

絶対解



納得解・最適解

絶対解は、知識としてなら教師が一方的に与えることができる。

絶対解はそこにたどり着いたらそれ以上深まらない。

納得解・最適解を得るためには、主体的に問いに向かう姿勢と、自分との対話・他社との対話が不可欠。

納得解と最適解は、自己との対話、他社との対話の中で、深め続けることができる。

# 道徳教育

しかし、心の中から湧き上がってくる、理由のない絶対の善や美は、本当になのか…。本当の友情とは何かと問うことは意味がないのか…。

道徳では心<sup>こころ</sup>を置き去りにはできない。心は、教えられるのか…。

これが特別の教科である所以。

補足：  
倫理学（メタ倫理学を含む）から

功利主義

最大多数の最大幸福

義務論

定言命法 無条件に「～せよ」と命じる

メタ倫理学

そもそも道徳（正しさや善さ）は実在するのか。

(2)

教育活動全体で行う道徳教育について

# 道徳科の学習活動を支える要素

道徳教育・道徳科で育てることを目指す  
資質・能力

【学習】

道徳的価値の理解

自己を  
見つめる

を基に

多面的・多角的  
に考える

自己の(人間としての)  
生き方についての  
考え(思考)

学習を  
通して

道徳性

道徳的な判断力、  
心情、  
実践意欲と態度

基盤と  
なる

自立した人間として  
他者と共によりよく生きる  
実践(行為・表現など)

## 道徳性を養うために行う道徳科における学習

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習

積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行う  
道徳科の「学習状況及び道徳性に係る成長の記録」

観点別評価や他の児童生徒との比較ではなく、個人内評価として見取ったことを記述により表現する評価。個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえ、道徳科の学習を通じて、多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値を自分自身との関わりの中で深めようとしているかどうか注目する。  
(H28.7.29初等中等教育局長通知)

道徳教育の要として補い、深い、相互の関連を考えて発展・統合させる

各教科等で育成する資質・能力  
「学びに向かう力、人間性等」

## 各教科等の目標に基づく固有の指導

「学びに向かう力、人間性等」に係る個人内評価

道徳性の育成は、「学びに向かう力・人間性」に深く関わる。「学びに向かう力・人間性」には、各教科等における観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれない部分がある。こうした部分については、個人内評価(個人の良い点や可能性、進歩の状況について評価する)を通じて見取る。  
(H28.8.1「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)」教育課程企画特別部会)

学校生活全体において  
具体的な行動として見られる部分

児童生徒の具体的な行動に関する  
「行動の記録」

各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童生徒の具体的な行動について記載する。

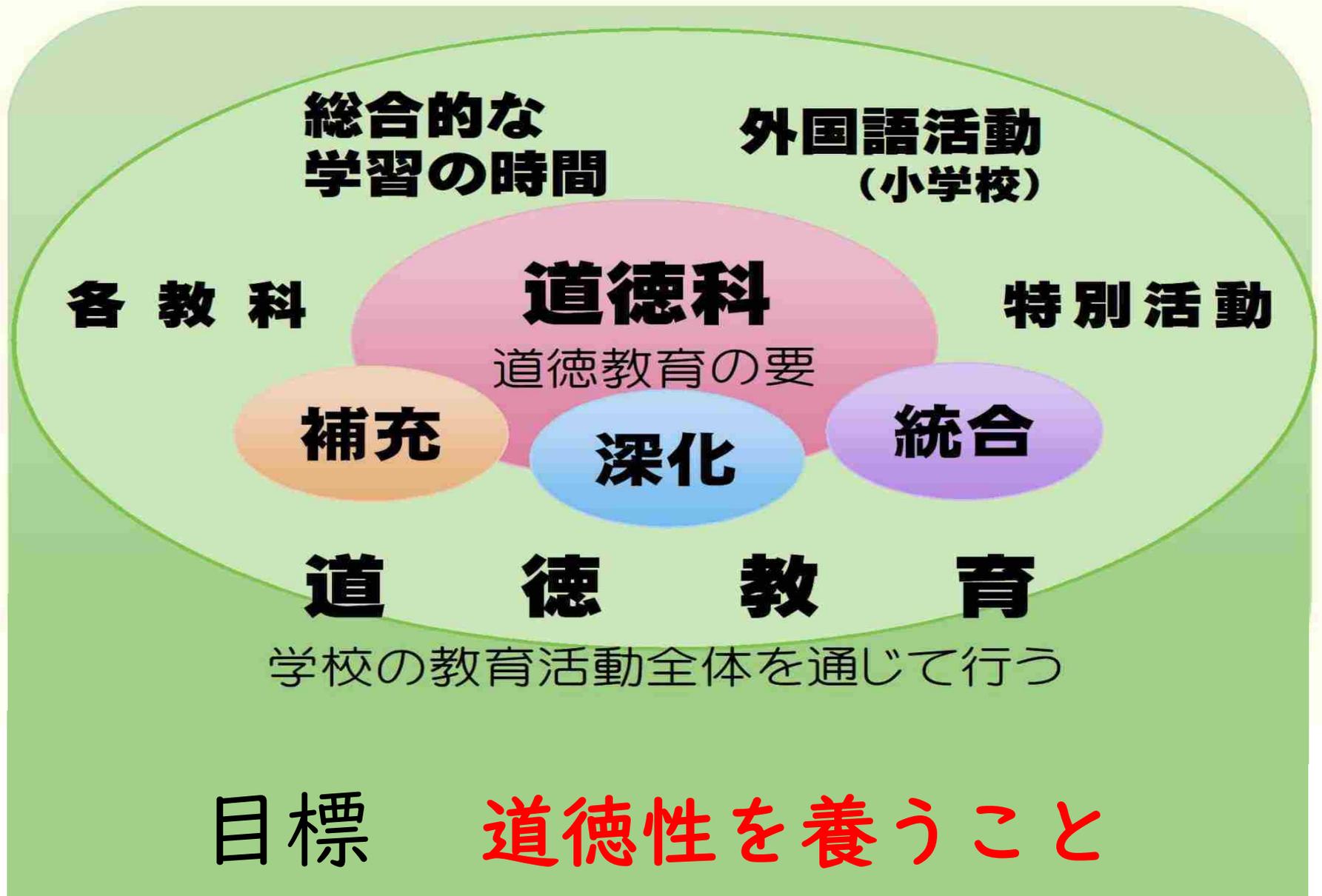
道徳科

各教科等

【学習】

【評価】

# 道徳教育と道徳科の関係



# 各教科で行う道徳教育

- 1 各教科等の目標、内容、教材との関わり
- 2 学習活動や学習態度への配慮
- 3 教師の態度や行動による感化

# 1 各教科等の目標、内容、教材との 関わり

各教科等の目標、内容及び教材に含まれる道徳的価値を意識しながら指導することにより、道徳教育の効果も一層高めることができる。

例)

## ◆国語科

国語による表現力と理解力を育成することや伝え合う力を高めることなどは、学校の教育活動全体で道徳教育を進めていく上で基盤となるものです。また、思考力や想像力及び言語感覚を養うことは、道徳的心情や道徳的判断力を養う基本となります。さらに、国語を尊重する態度を育てることは、伝統と文化を尊敬し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することにつながるものとなります。

## 2 学習活動や学習態度への配慮

児童が伸び伸びとかつ真剣に学習に打ち込めるよう留意し、学級の雰囲気や人間関係が思いやりがあり、自主的かつ協力的なものになるよう配慮。

例) 話し合いの中で自分の考えをしっかりと発表すると同時に友達の意見に耳を傾けること各自で、あるいは協同して課題に最後まで取り組むこと

### 3 教師の態度や行動による感化

教師の用いる言葉や児童への接し方などは、児童の道徳性が育つよりよい学級の雰囲気や環境をつくるとともに、児童の人格の形成に直接、間接に影響与える。教師は、道徳の目標や内容に示されている精神を自らが授業の中で実践するよう心掛ける必要がある。

# 「要」の意味

## 補充・深化・統合

各教科等における道徳教育では、それぞれの内容項目が十分に扱われているものとそうでないものがある。取扱いが不十分な内容項目について、それを道徳科で補うこと意識する。

(例)

教育活動全体で、「郷土愛」について学ぶ機会が少ないので、「道徳科」では、補充を意識して行う。

# 「要」の意味

補充・**深化**・統合

各教科等における道徳教育は、それが主たる目標ではないため、掘り下げが十分とは言えない。授業で扱う内容項目の指導を、道徳科でより一層深めることを意識する。

(例)

7月は、「生命尊重」をテーマに講演会を行った。しかし、より意識を深めたいので、「道徳科」では、「表面的な理解」や、「一面的な見方」からより深化することを意識して行う。

# 「要」の意味

補充・深化・**統合**

各教科等における道徳教育でも、  
様々な体験をしていたとしても、  
それらの相互の関連までには意識し  
ないまま過ぎてしまふことがある  
。授業で扱う内容項目に関わる  
様々な道徳的価値について、道徳  
科で関連を捉え直したり、自分な  
りに発展させたりすること意識す  
る。

# 「要」の意味

補充・深化・統合

(例)

6月は、老人福祉施設で福祉体験をした。  
9月も、幼稚園で体験活動を行ってきた。  
それぞれの体験をとおし、「思いやり」について考えることができた。しかし、「思いやり」について一般化されていない。

「思いやり」について、一般的に全体的なつながりで捉えさせたいので、「道徳科」では、統合を意識して行う。

# 教育活動全体で行う道徳教育

## 道徳性を養う（内面的資質）

各教科

特別活動  
生徒指導

補充・深化・統合  
（関連付ける）

道徳科

道徳的実践の  
指導を含む

# 道徳性を養う実践の指導

「友人に悪口を言っている児童に対する指導」

即時的な対応

「悪口を言うことをやめなさい。」

道徳性を養う指導

「悪口を言うことは、よいことなのですか？」（判断力）

道徳性を養う指導

「悪口を言われた人は、どんな気持ちになりますか」（心情）

道徳性を養う指導

「これから、どうしていきたいですか」（実践意欲・態度）

# 道徳性を養う実践の指導

## 「清掃指導の場面」

「しっかり働けていますね」（勤労）

「友だち同士と力を合わせてがんばっているね」（友情）

「掃除の時間は20分ですよ。きまりをまもれるかな」  
（規則尊重）

「自分の役割をはたしてがんばっていますね」（自主自立）

「掃除の時間は20分ですよ。きまりをまもってはたらこう」  
（自主自立）

「みんなの学校をいつも大切にしたいですね」  
（よりよい学校生活）

# 実践の指導という面からとらえると

## 道徳教育

目標 道徳性

自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性

学校教育全体で行う

内面的資質

## 生徒指導

目的 自己指導能力

自発的、自律的、かつ他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力

### 往還関係

3機能

自己存在感  
共感的人間関係  
自己決定

学校教育全体で働く機能

開発的  
予防的  
課題解決

## 特別活動

育成すべき資質・能力の重要な視点

人間関係形成  
社会参画  
自己実現

学級活動  
クラブ活動  
児童会・生徒会  
学校行事

為すことによって学ぶ

目標に共通する部分が多い

# 道徳性と道徳的実践の関係

道徳性が  
高い

=ではない

道徳的実践  
が行われる

道徳性が  
高い

=でもない

道徳的実践  
が行われる

道徳性  
(内面的資質)

影響しあう

道徳的実践

道徳教育

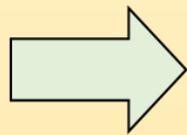
往還関係

特別活動  
(なすことによって学ぶ)  
生徒指導

# 実践の指導の場面でも…

絶対解

価値を押し付ける指導



納得解・最適解

子どもとともに、価値を見つけることを促す指導

生徒指導の3機能

自己存在感  
共感的人間関係  
自己決定

を大切にしたい働きかけ

補足：行動に影響を与えるのは...

行動に影響を与えるのは、

道徳的判断力？

認知？

理性？

道徳的心情？

感情？

直感？

2つの思考モード

(3)

「特別の教科 道徳」について

# アフター「教科化」の現在 現行学習指導要領の中での道徳科 教科の特質を復習

何ができるようになるか

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

どのように学ぶか

「主体的・対話的で深い学び」



考え、議論する道徳

# 深い学びの鍵となる「見方・考え方」

多様な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること

中央教育審議会（答申）H28

## 道徳科の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科の目標の学習活動と同じであると言える

# 道徳科における主体的・対話的で深い学び

考え

「主体的な学び」

「対話的な学び」

議論  
する

自分との関わりで捉え

多面的・多角的に考える

教師の明確な意図により「深い学び」へと向かう。

様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育てる学習とする。

# 道徳科における主体的・対話的で深い学び

## 主体的な学び

児童生徒が真剣に考えること



## 対話的な学び

児童生徒が共に語り合うこと



## 深い学び

教師が指導の明確な意図をもつこと



主体的・対話的なだけでは、活動  
あって学びなしとなることもある

大切なのは 「深い学び」

教師が指導の明確化意図をもつ  
→つまりは、教科の特質の理解  
と、教材研究

# 評価についてのまとめ

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。

このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

- × 道徳的価値がどれだけ理解できたか？
- × 道徳性の様相がどれだけ育ったか？

しかし、学習状況や成長の様子を適切に把握し、評価することは求められる

道徳性ではない



数値による評価ではなく、**記述式**とする

他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人内評価**として行う

**個々の内容項目ごとではなく**、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とする

学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視する

# 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか

- ・ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている
- ・ 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている
- ・ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている

など

# 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で 深めているかどうか

読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている

現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している

道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている

道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている など

(4)

校内での推進について

# 道徳教育が充実しない背景として考えられること

- 学校の教育活動全体で行う道徳教育については、何を目標して行うかは、学校が独自に考えなければならない。
- 学校の道徳教育の目標に向かって、どのような内容を重点的に行うのかを学校独自で決定しなければならない。
- 学校独自の重点内容項目について、いつ、どのような機会に指導するのか、その計画を学校独自で作成しなければならない。



学校で道徳教育を進める際には、学校が主体的に子供の実態や地域の実情など様々な事項を的確に把握して、育てたい子供像を明らかにして目標を設定し、計画を立てて、教職員が共通理解、共通実践できるようにすることが求められる。



カリキュラムマネジメント力  
組織力  
校長・推進教師のリーダーシップ

# 令和4年度 道徳教育全体計画

## 法的根拠

## 学校の教育目標

## 子どもの実態

## 各教科・特別活動等の指導方針

## 指導の時期・内容は別葉で

## 保護者・教師の願い

## 道徳教育の重点目標

## 各学年の重点内容項目

## 道徳科の指導方針

## 生徒指導 地域との連携 環境整備 など



# Ⅰ 道徳教育の重点目標の明確化

学校として、どのような子どもを育成するのか明らかにする。

- ・ 教育関係法規
- ・ 学習指導要領
- ・ 教育行政の重点施策
- ・ 子どもや保護者の願い
- ・ 学校経営方針

# I 道徳教育の重点目標の明確化

## 学校経営方針

思いやりの心を育むことと、規範意識を高めることを目指す。

指導要領の趣旨から

人間尊重の精神を生かし、道徳的心情と判断力を高め、道徳性を養う。

子どもの姿が見えるよう  
さらに具体化

人間尊重の精神を生かし、思いやりの心をもって、規範を尊重しようとする子どもを育成する。

## 2 道徳教育の重点内容項目の設定

人間尊重の精神を生かし、思いやりの心をもって、規範を尊重しようとする子どもを育成する。

道徳のどの内容項目に関  
わるのか

B 親切・思いやり

C 規則の尊重

## 2 道徳教育の重点内容項目の設定

各教科における道徳教育と重点内容項目との関連

社会科5年

「わたしたちの生活と森林」という単元で森林の働きや林業について学習する

内容項目D「自然愛護」と関連が深いが…

A校の重点内容項目  
「生命の尊重」

森林を守ることは、多くの生き物の命を守ることにつながる、という観点から「生命の尊重」を意識させられる。

B校の重点内容項目  
「勤労・公共の精神」

森林を支える林業従事者の体験談などを通して、「勤労の尊さ」について意識させることができる。

重点項目を押さええて意識して指導すると、学校全体の道徳教育が整ってくる。



# 補足：重点目標を具体化する？

素朴な疑問…。

学校全体で行う道徳教育の評価は、どうしますか？そもそも、重点目標はどのように設定しましたか？望ましい児童・生徒の行動から考えませんでしたか。

同じ「道徳性」を養うはず。教科化にあたってはあれほど心配した「道徳性の評価」ですが。

コミュニティスクール時代の道徳教育は、どうすればよいのでしょうか。

「品性教育」

## 4 道徳教育推進教師の役割

校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。

H29 解説編 P87

自分事として、全職員が取り組む意識をもつことが大切。

例

<p>道徳教育の指導計画（全体計画）の作成に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の重点目標を全教員が共通認識できる機会をつくる。</li> <li>・見直しの視点を示す。（実態から、重点目標から等）</li> <li>・指導記録を計画の見直しに生かせるように、指導記録を使った見直しの機会をつくる。</li> </ul>
<p>全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の重点内容項目を、機会（学校行事・体験活動等と関連して）を見つけては確認する。</li> <li>・年間1回以上、各教科、総合的な学習の時間等との関連、体験活動や地域とのつながり等を年間計画や別葉を基に見直す機会をつくる。</li> </ul>
<p>道徳科の充実と指導体制に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業研、道徳教育研修の研修計画へ位置付ける。→記録の蓄積</li> <li>・ティーム・ティーティング（T・T）授業を計画する。（ゲストティーチャーの活用も含め）</li> <li>・複数学年、学級による合同授業を計画する。</li> <li>・ゲストティーチャー一覧表を作成し、共有化を図る。</li> <li>・全職員で関わるような仕組みを作る。</li> </ul>
<p>道徳（道徳教育）用教材の整備・充実・活用に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材、掲示物、板書記録の保存と活用を行う。（保管場所の明示、提出数の明示、機能的に活用できるように）</li> <li>・地域教材の開発に向けた計画、支援を行う。</li> </ul>
<p>道徳教育の情報提供や情報交換に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修報告の機会を確保する。</li> <li>・校内で紹介したい資料を収集する。</li> <li>・近隣の学校で研究授業に参加し合う。</li> <li>・HPに「道徳教育」のページを設ける。</li> </ul>
<p>道徳科（道徳教育）の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開、懇談会を企画する。（保護者参加型授業も含めて）</li> <li>・家庭、地域との連携方法を明確にする。</li> <li>・HPに「道徳教育」のページを設ける。</li> <li>・学校便り、学級便りに意図的に掲載するように働きかける。</li> </ul>
<p>道徳教育の研修の充実に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業研修、道徳教育研修の研修計画へ位置付ける。</li> <li>・模擬授業の実施を提案する。</li> </ul>
<p>道徳教育における評価に関すること （道徳教育の全体計画の評価に関すること）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校自己評価へ位置付ける。</li> <li>・子供の道徳性を見取りについて、共通理解を進める。（上段キと関連）</li> <li>・記録の仕方を統一する。</li> <li>・保護者や外部の方の声を集める。</li> </ul>

# 5 校内研修

## ローテーション授業

原則学級担任が行う道徳授業を、学年間で指導する教材の担当教諭を決め、交代で指導する。授業力向上につながるとともに、学級担任が生徒を客観的に見取り、新たなよさや成長の様子を把握することが期待される。

	メリット	デメリット
生徒にとって	<p>①様々な指導者の授業を受けることで、いろいろな価値観に触れることができる。</p> <p>②毎回の授業が新鮮になり、楽しみになる。</p> <p>③その結果、積極的に授業に取り組み、思考を深めることができる。</p> <p>→<b>道徳性の高まり</b></p>	<p>①指導者が毎週変わることによって、自分の思いや考えを伝えることを不安に思う。</p>
指導者にとって	<p>①教科の特性や得意分野を生かした授業の工夫ができる。</p> <p>②教材研究にかかる時間が増え、自信をもって授業に臨むことができる。</p> <p>③見出された反省や課題をすぐに次の授業に生かすことができる。</p> <p>④複数の授業者による多角的な生徒理解ができる。</p> <p>⑤他教員の授業の参観がしやすい。</p> <p>→<b>指導力の向上</b></p>	<p>①個々によって、担当しない内容項目が生じる。</p> <p>②配慮を要する生徒に対する関わり方が難しい。</p> <p>③年間を通した生徒の変容の把握について、担任と綿密な連携が必要である。</p>

# アフター教科化の実態は…

令和3年度 道徳教育実施状況調査より

## 【設問2】 道徳教育の充実のために学校として行った取組（複数回答可）



### 【設問3】 道徳教育を推進する上での課題（複数回答可）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

1. 児童生徒や学校、地域社会の実態と課題の把握



2. 上記「1」に応じた道徳教育の重点目標の設定



3. 学校の道徳教育の重点や推進すべき方向について教師間での共通理解や連携を図るための機会の確保



4. 各教科等における道徳教育の実施



5. 特色ある教育活動や体験活動と関連させた道徳教育の実施



6. 家庭や地域社会との連携・協力



7. 道徳教育推進教師を中心とした全教師が協力し合う推進体制の確立



8. 全体計画の評価・改善（全体計画の「別業」も含む。）



9. その他



10. 特になし

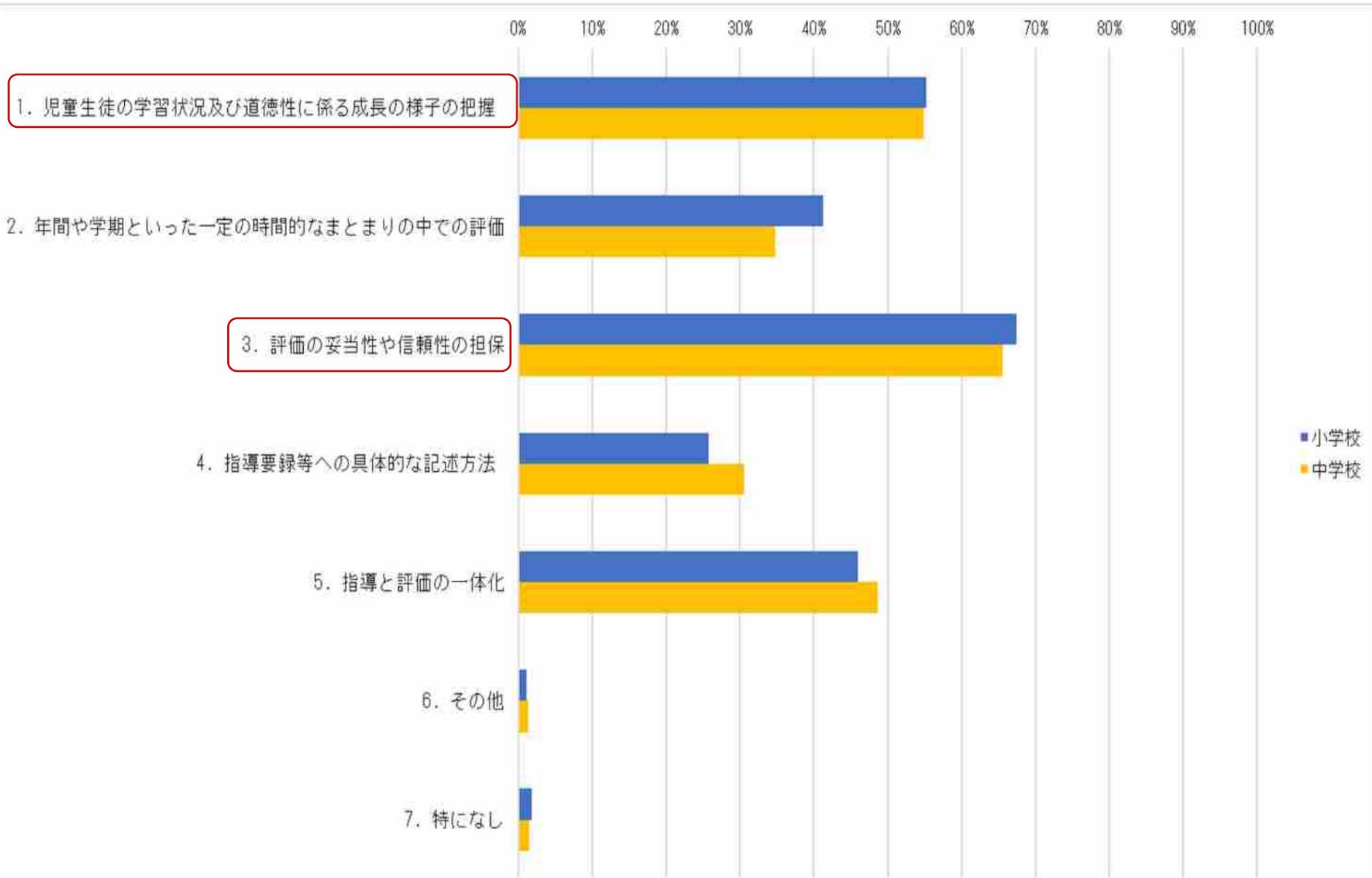


■ 小学校  
■ 中学校

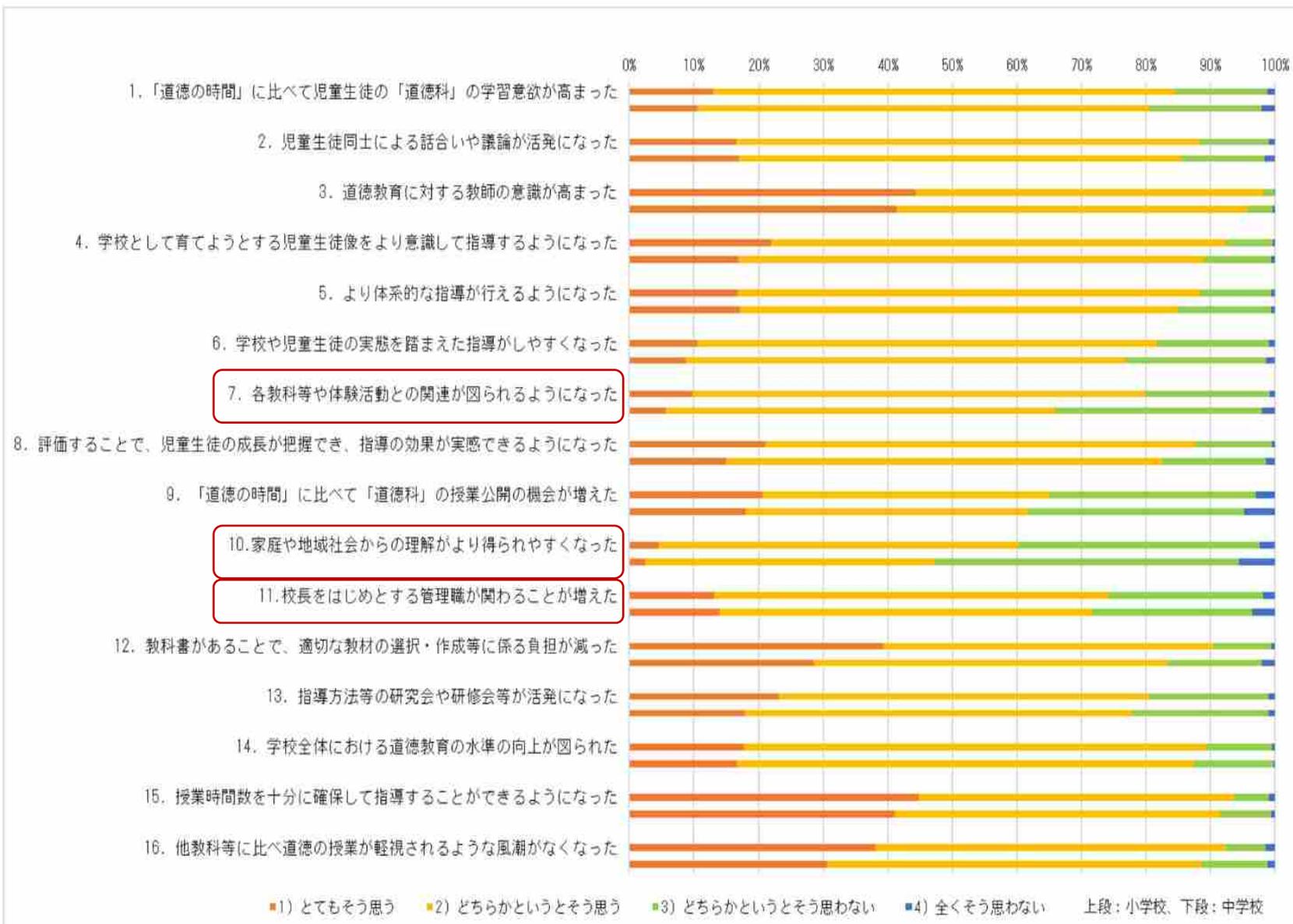
## 【設問6】 道徳科の授業を実施する上での課題（複数回答可）



## 【設問7】 道徳科の評価を行う上での課題（複数回答可）



# 【設問12】 道徳の「特別の教科」化を受けた変化



# ○授業改善

- 学校・教育委員会ともに一層の**授業改善がさらなる充実に向けた最も大きな課題**との認識
- 「特別の教科」化で求められる授業ができていないということではなく、道徳教育に対する教師や学校の**意識の高まりから、さらなる指導力向上を模索**
- **教材吟味や授業構想のための時間の確保**に係る課題認識

# ○評価の工夫

- 学校・教育委員会ともに約8割が「評価することで、児童生徒の成長が把握でき、指導の効果が実感できるようになった」との肯定的回答
- 一方で、多くの学校が「**評価の妥当性や信頼性の担保**」等に課題認識。学級担任の負担感や不安感が増したという趣旨の記述回答も
- 児童生徒の成長を積極的に受け止めて認め、励ます視点から行う道徳科の評価の特質を再確認する必要

## ○諸計画の作成と活用

- 総じて諸計画の作成、指導体制の整備に注力する状況が窺える一方、画を着実な実施につなげるため**共通理解を図る段階に改善の余地**
- 計画の具現化に向け、**全体計画の別葉の作成と活用（特に中学校）**、諸計画を評価・改善していくための手立てに改善の余地
- 各学校や児童生徒の実態に応じたものとなるよう十分留意する必要

## ○指導体制と研修の充実

- 学校種の特性を踏まえ実働する**機能的な指導体制の構築**を図ることが重要
- 併せて、**道徳教育推進教師の位置付けや役割を踏まえた校務分掌の調整**や、**学校管理職のリーダーシップ**が重要
- **校内研修：道徳教育推進教師が中心となって組み立てることに改善の余地**

## ○家庭や地域社会との連携

- 学校・教育委員会ともに一定の課題認識。学校や地域の実態に応じた取組の充実に期待
- 学校管理職のマネジメントの下で道徳教育推進教師が中心となって、**まずは情報発信**を進めることが連携の端緒

## ○「特別の教科」化による変化と課題認識

- 道徳の「特別の教科」化を受けた変化に係る学校・教育委員会の認識を踏まえ調査結果を総括的に捉えると、**「特別の教科」化が目指した道徳教育の量的確保の面で確実に定着。**  
「考え、議論する道徳」への質的転換の面でも、前2頁のような課題はありつつ、**不断の授業改善、評価の改善により取組は着実に進展**

- なお、「特別の教科」化に伴う教科書使用に関して様々な受け止め。児童生徒の道徳性を効果的に育む観点から、**教科書の題材を扱う順番や時数配当の工夫、補助教材の活用等について授業改善の一環として検討する必要**